一関市総合計画策定に係る意見交換会　記録

第４回一関市総合計画審議会として開催予定であったが、出席委員が委員総数の半数未満（14名未満）となり、定足数を満たさなかったことから、市主催による一関市総合計画策定に係る意見交換会として開催した。

欠席者からは、別途、意見を募ることとした。

１　会 議 名　一関市総合計画策定に係る意見交換会

２　開催日時　令和６年９月27日（金）　午後２時から４時まで

３　開催場所　一関市役所　２階　大会議室Ａ

４　出 席 者

⑴　委　員　阿部利彦委員、泉賢司委員、伊藤拓也委員、宇津野泉委員、岩渕一司委員、小岩邦弘委員、東海林訓委員、千葉真美子委員、徳谷喜久子委員、藤本千二委員、船山賢治委員、星義弘委員、吉田正弘委員

※欠席者　及川恵理子委員、大内早智子委員、小野寺忍委員、小山亜希子委員、加藤沙央里委員、西條恵美子委員、齊藤裕美委員、佐々木承子委員、菅原美津代委員、菅原秀文委員、佐藤弘子委員、千田久美子委員、千田好記委員、吉田捺委員

⑵　事務局　今野薫市長公室長、飯村昌弘市長公室次長兼政策企画課長、小山隆之政策企画課課長補佐兼政策推進係長、渡辺苑子政策企画課主任主事、谷藤義拓政策企画課主任主事

⑶　一関市総合計画策定支援業務受託者　株式会社邑計画事務所　及川一輝取締役

５　内　　容

⑴　議題

ア　次期総合計画基本構想「将来像」「基本目標」案について

イ　パブリックコメントについて

ウ　アンケート調査の追加分析結果について

６　公開、非公開の別　公開

７　傍聴者の数　１人（うち報道機関　１社）

８　小岩会長挨拶

先ほど事務局から説明があったとおり定足数に１名足らず、正式な審議会とはならないが､内容的には第４回審議会で行う予定だったものを意見交換会という形で開催する。

７月20日に開催した市民ワークショップ、９月３日に開催した総合計画審議会ワーク

ショップ部会、これらの内容を踏まえた将来像や基本目標の事務局案が示される。

示された案について、これからの一関の10年をどのようにしたらよいか意見交換を行いたいのでよろしくお願いする。

9　意見交換

⑴　次期総合計画基本構想「将来像」「基本目標」案について

事務局から資料№.１に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

会　長　本日示されているのはあくまでも事務局案でありこの中から選ぶというわけではない。自由に意見を出していただきたい。

委　員　案を組み合わせて「私たちは輝く　挑戦しつづけるまち　素敵ないちのせき♡」という案を考えた。愛というキーワードを「♡」で表した。

委　員　若者は「挑戦」「変わり続ける」という言葉をポジティブに受け取るかもしれないが、逆に考える人もいるので言葉の選択が難しい。

委　員　拒否反応を示す人ももちろんいると思うが高齢者にとっても変わることは大切なことであり、それをうまく伝わるような表現方法があればよい。

委　員　「挑戦し続けること」と「変わり続けること」は高齢者でも必要なことである。２案合わせて「誰もが輝く　挑戦しつづけるまち」だと、みんなが輝き、みんなで変えていくという意味合いになるのではないか。

委　員　「変わり続ける」だけに焦点を当てるのではなく、「〇〇のために変わり続ける」という表現にすると、今のまちをより良くするためには現在の取組とは違うこともやっていかなくてはならないという意味が伝わると思う。

委　員　誰もが「輝く」だと切れてしまう印象を受けるので、誰もが「輝き」とすることで印象が変わるのではないか。

委　員　「変わる」という言葉には良い意味と悪い意味が含まれる。「挑戦」という言葉には変わるという意味も含まれると思うので、「変わる」よりは「挑戦」のほうが良いと思う。「挑戦する」と言い切るのか、「挑戦できる」とするかは判断が分かれると思うが、やりたくてもできないという人もいると思うので「誰もが挑戦する」などの前のめりな言い切り表現は避けたほうがよいと考える。

委　員　目指すところは「幸せを実感できるまち」だと思う。

委　員　これまでの将来像は抽象的で、特定的な表現がない。将来像は「住みやすい」「暮らしやすい」などの抽象的な表現のほうがよいと思う。

委　員　変わるという言葉は英語でchangeであるが、改善していくという方向性のほうがよいと考える。また「挑戦する」のは誰なのか、市政として挑戦していくという文脈であればよいが、市民が挑戦し続けるとなると強い印象を受ける。

委　員　市がこのような目標に向かって頑張っていくという意味であれば強い言葉のほうがインパクトがあってよい。

委　員　主語となるような「市民視点」や「行政視点」を解説として表記すれば、抽象的な将来像であっても、それぞれ自分の立場に当てはめて考えられると思う。

会　長　総合計画の対象は、市民、行政、企業などと考えてよいか。

事務局　市民、行政、企業だけではなく一関市に関わるすべての人と整理している。

委　員　全員に響く言葉は難しい。10年後にまちづくりの中心となる層にターゲットを絞るのもよいと思う。

会　長　将来像は抽象的であっても、基本目標で少し具体的にしていけばよいと思う。

副会長　現在の総合計画の将来像について、審議会委員となる前に知っていたか。知っていたとしたらどこで知ったのかが気になる。

委　員　ラジオで聞いた気がする。

委　員　聞いたことはあったと思うがインパクトがなかった。

副会長　そのような意見を参考にしながら次の将来像を考えたい。

委　員　インパクトはあったほうがよい。

委　員　若い人たちに郷土の宝と言っても伝わらない。伝わらないと意味がない。インパクトがあるほうが伝わる。

委　員　合併後、３期目の計画ということで、一関市の30年目の目標をどのように組み立てるかだと思う。みんなが輝いて、どこを目指していくのか皆さんと意見を出し合いたい。

会　長　将来像だけでは伝わりにくい。将来像に付す説明文をしっかりと作っていく必要がある。

委　員　今考えている将来像のさらにその先のことをイメージしながら考えていくと、つながりや新たな視点が生まれるのではないか。

委　員　例えば北海道で「試される大地」をキーワードにしたことがあったが、同じように端的に一関市が目指すものを表現するのもよいと思う。二十数文字では伝えきれないので、「挑戦、一関」など短くしてはどうか。

委　員　前提として、人口減少が懸念される中で、地域の活力を高めていくためのしごとづくり、ひとづくり、まちづくりが実現できるような将来像としなければならないと思う。そのように考えるとやはり「挑戦」や「輝く」という言葉になっていくのだと思う。

委　員　一関が好きな人を増やすのが一番大切なのではないか。一関が好きな人が増えることがまちの賑わいを生むと思う。現状維持では人口は減っていくので、

挑戦していくという姿勢がないとまちは衰退していくと思う。

委　員　10年後に人口が減っているのは分かっていることであり、都市間競争の中でいかに持続可能な社会を作っていくかということなので、ある程度強い言葉で目標を立てることは必要だと思う。

委　員　市の体制を維持し、発展させていくためには「ひとりひとりが輝く」ことが必要である。ひとりひとりが輝けば人が集まってくると思う。

委　員　少子高齢化が進む中で、「誰もが輝く」というのは全体の話でよいと思うが、暮らしやすさを目指して、若い人に残ってほしいという思いを入れたい。

委　員　challengeやloveなど英語を使うのもよいと思う。

邑計画事務所：短ければ短いほうが良いのはそのとおり。高知県佐川町の「まじめに、おもしろく」や島根県海士町の「ないものはない」などが例として挙げられる。

総合計画の将来像を覚えている市職員は少ないと思う。将来像を一緒に考えた人がいて、考えた中で生まれた魂を受け取ることができる人を増やせるような将来像であるとよい。将来「像」であり、形あるものなので、思い浮かぶものが一致するような将来像が望ましい。「変わり続ける」という言葉は他の自治体にもあまりなく、覚悟は必要だが良い言葉だと思う。ワークショップ部会では「変わらないために変わり続ける」というキーワードが出たが、それも非常に良い言葉だと思う。

委　員　「変わり続ける」を「転がり続ける」「ローリング」と表現してはどうか。

委　員　キャッチフレーズと将来像は違う。将来像は形をイメージさせるような言葉が良い。先ほど話した「挑戦、一関」だと姿勢は分かるが「像」に結びつかない。

委　員　「変わらないために変わり続ける」の「変わらないもの」は現計画の将来像にある「郷土の宝」である。一関市が守っていかなければならないもののイメージができるので「変わらないために変わり続ける」という将来像は良いと思う。

委　員　郷土の宝を取り巻く環境も変わっていく。

委　員　基本目標案について、ひとを「生きる」とだけで表すのは味気ない気がする。生きるのは当然のことなので「輝き」などで修飾したほうがよい。

委　員　A案が具体的に目指すところが分かりやすく、将来像を受けての説明をしやすいと思う。

委　員　A案が良いと思うが、一関市の計画なので「いちのせきで生きる」などいちのせきと書かなくても伝わると思う。将来像を補足するような内容になってい

ると思う。

委　員　仕事をすることによって自己実現が達成されるという側面と、仕事をすることによってまちができていくという側面がある。「はたらく」だけが「しごと」ではない気がする。

委　員　ひとつの側面だけでは完結できないものだと思う。それは基本計画を策定していくときに、具体を示していく必要がある。

委　員　「しごと」「ひと」「まち」は繋がっている。

委　員　自己実現するだけが「しごと」ではない。生活に資する「しごと」が前提にないといけない。

⑵　パブリックコメントについて

事務局から資料№.２に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委　員　パブリックコメントは必ず実施しなければならないのか。市民からの意見を聴いたという形を作っているだけではないか。各地区に協働体があるので、そこに様々な情報を共有するべきである。総合計画の策定状況について、協働体に情報を共有し意見を聴いてもよいのではないか。せっかく作った協働体を活用してほしい。

委　員　前回のパブリックコメントはあまり周知されていなかったと思う。今回、様々な媒体を使うことによって前回よりは意見は集まると思う。協働体などの集まりで意見をもらうことも大切である。

委　員　ＬＩＮＥでの通知は良い周知方法だと思う。

⑶　アンケート調査の追加分析結果について

事務局から資料№.３に基づき説明を行った。質疑等なし。

10　担 当 課　市長公室政策企画課